

協議事項3 評価項目の整理

1 目的

プラントメーカーへの照会事項も加え、各処理方式を正確に評価するための項目を整理します。

2 評価項目(案)

大項目	中項目	小項目	評価	評価の着目点
安定性・安全性	安定稼動	ごみ質・量の変動	定性	ごみ質やごみ量の変動に対応(処理)が可能か。
		処理不適物	定性	処理不適物の内容はどうか。
		運転管理の難度	定性	難度の高い専門技術が必要か。
		システムの簡略化	定性	機器の種類(個数)はどの程度か。
		補修の頻度	定性	主要機器を補修する頻度はどの程度か
		連続稼動実績	定量	連続して稼動した実績(日数)はどうか。
	安全性	非常時の対応	定性	ガス漏れ、爆発など火災対策がとられているか。
		防災面への対応	定性	地震、風水害による停止時の対策がとられているか。
		事故・トラブル事例	定性	過去に人災事故・処理が停止した事例があるか。
		労働安全衛生	定性	稼動後において作業環境悪化事例があるか。
経済性	建設	建設費	定量	プラント・土木建築工事費、諸経費等はどの程度か。
	運転管理 (20年間)	運転・維持管理費	定量	運転管理費(人件費、用役費)、維持管理費(点検費、補修費)はどの程度か。
		残渣(資源化)に要する費用	定性	処理残渣の資源化に係る費用はどの程度か。
		最終処分に要する費用	定量	最終処分場に埋立てする残渣物の処理費用はどの程度か。
	資源化 (20年間)	売電収入	定量	発電量のうちどの程度売電可能か、売電収入はどうか。
		売却収入	定量	金属、スラグ等の売却収入はあるか。
	コスト変動	コスト変動対応力	定性	補助燃料等のコスト変動の影響による処理経費安定性はどの程度あるか。
建築面積	建物の大きさ	定量	建物の大きさから、どの程度の敷地面積が必要か。	
環境性	省エネルギー	資源・エネルギー消費量	定量	助燃剤・電力・用水・薬剤使用量等はどの程度か。
	再資源化	物質回収量	定量	鉄、アルミ等の回収量はどの程度か。
		処理残渣の資源化	定量	焼却灰、飛灰、スラグ、不燃物、金属(メタル含む)等の資源化に係る実現可能性はどうか。
		エネルギー回収量	定量	発電量、回収量はどの程度か。
	最終処分負荷	最終処分量	定量	最終処分量はどの程度か。
	公害防止性能	公害防止基準	定量	公害防止基準値を上回る設定が可能であるか。
		排ガス量	定量	排ガス量はどの程度か。
温暖化負荷	温室効果ガス発生量	定量	二酸化炭素排出量はどの程度か。	

はプラントメーカーへの照会内容(案)を記載しています。